

古記録 文献目録 【総合編】

2003.06.20 作成

2011.07.21 更新

著者	題名	所収誌 発行所	年	備考(再収書等)
星野恒	歴世記録考	『史学叢説 第1集』 富山房	1903	
黒板勝美	我が国日記の沿革を述べて馬琴翁の日記鈔に及ぶ	『馬琴日記鈔』	1911	『虚心文集 第6』吉川弘文館 1940
和田英松	日記に就いて	史学雑誌 24-10	1913	『国史国文の研究』雄山閣 1926、『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社 1989
和田英松	平安朝に於ける日記の研究	『日本文学講座 10』 新潮社	1927	
黒板勝美	記録の研究	『更訂国史の研究 総説篇』岩波書店	1931	
是沢恭三	柳原紀光の諸家記録探求に就て	国史学 45	1932	
和田英松	『皇室御撰の研究』	明治書院	1933	国書刊行会
和田英松	御歴代の御日記に就いて	『日本文学講座 5』 改造社	1934	『国史説苑』明治書院 1939
岩橋小弥太	公家の日記	『日本文学講座 5』 改造社	1934	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社 1989
渡辺世祐	武家の日記	『日本文学講座 5』 改造社	1934	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社 1989
田山信郎	記録 特に平安朝の日記に就いて	『岩波講座日本歴史』 岩波書店	1934	
高橋隆三	史料としての記録外集	国史学 30	1937	
渡辺世祐・高橋隆三	『大日本史講座 史籍の選択法 史籍解題』	雄山閣	1938	
馬杉太郎	史料としての日記 特に公家の日記について	歴史公論 7-11	1938	
山本信哉	記録の研究	史苑 11-3・4	1938	
田山信郎	平安朝の記録	『本邦史学史論叢 上』富山房	1939	
和田英松編	『国書逸文』	森克己	1940	
黒板勝美	記録古文書の研究	『虚心文集 5』吉 川弘文館	1941	
玉井幸助	『日記文学概説』	目黒書店	1945	国書刊行会 1982
斎木一馬	日本古記録学の提唱 附 日記研究の主要論文目録	日本歴史 8	1947	『古記録の研究 上』吉川弘文館 1989
斎木一馬	日記の改竄と偽作とについて	日本歴史 11	1947	『古記録の研究 上』吉川弘文館 1989
宮内庁書陵部編	『国書寮典籍解題 歴史篇』	養徳社	1950	
宮内庁書陵部編	『国書寮典籍解題 続歴史篇』	養徳社	1950	
臼井信義	古記録の塗抹文字	日本歴史 43	1951	
高橋隆三	古宣命紙背の記録について	国史学 54	1951	
宮内庁書陵部編	『東山御文庫本展示目録』	宮内庁書陵部	1954	
小島小五郎	「儀式」と公家日記との関係 平安朝の日記流行に関する一試論	史学研究 55	1954	
家永三郎	歴史資料としての日記	国文学解釈と鑑賞 1 月号	1954	
土田直鎮	平安中期に於ける記録の人名表記法	日本歴史 72	1954	
宮内庁書陵部編	『東山御文庫本および九条家家乗展示目録』	宮内庁書陵部	1956	
滝川政次郎	事発日記	法制史研究 6	1956	『法制史論叢 4 律令諸制及び令外官の研究』角川書店 1967

宮内庁書陵部編	『伏見宮および九条家旧蔵記録 展示目録』	宮内庁書陵部	1957	
石田吉貞	漢文日記について	国語と国文学 35-10	1957	
花山雄吉	陽明文庫所蔵の古日記	日本歴史 105	1957	
岩橋小弥太	記録概説	『上代史籍の研究 第2集』吉川弘文館	1958	
曾沢太吉	「日記」は果たして中国からの 借用語か	国語と国文学 27-10	1958	
宮内庁書陵部編	『九条家旧蔵記録類展示目録』	宮内庁書陵部	1961	
宮内庁書陵部編	『伏見宮旧蔵部類記録類展示目録』	宮内庁書陵部	1962	
高橋伸幸編	『国史国文資料叢書 3 古記録 学資料集 上』	うまれ木文庫	1964	
高橋伸幸編	『国史国文資料叢書 4 古記録 学資料集 中』	うまれ木文庫	1964	
高橋伸幸編	『国史国文資料叢書 5 古記録 学資料集 下』	うまれ木文庫	1965	
是澤恭三	柳原紀光の部類記作成	新訂増補国史大系月 報 60	1966	
林屋辰三郎	日記の伝統	思想の科学 45	1966	
斎木一馬	『諸家名記』考	『日本史籍論集 上』 吉川弘文館	1969	『古記録の研究 上』吉川弘 文館 1989
高橋隆三先生喜 寿記念論集刊行 会編	『高橋隆三先生喜寿記念論集 古記録の研究』	続群書類従完成会	1970	
米田雄介	日次記に非ざる「日記」につい て 『平安遺文』を中心に	『古記録の研究』続 群書類従完成会	1970	
桃裕行	古記録零拾	『古記録の研究』続 群書類従完成会	1970	
橋本義彦	部類記について	『古記録の研究』続 群書類従完成会	1970	『平安貴族社会の研究』吉川 弘文館 1976
宮内庁書陵部編	『鷹司家旧蔵本展示目録』	宮内庁書陵部	1972	
位藤邦生	漢文日記研究序説 文学性発見 の視坐	中世文芸 50	1972	『伏見宮貞成の文学』清文堂 1991
山中裕	公事と生活の記録	国文学解釈と鑑賞 37-4	1972	『平安人物志』東京大学出版 会
多賀宗隼	公家日記と歴史文学	日本歴史 316	1974	『論集中世文化史 上』法蔵 館 1985
竹内理三	日記と古文書学	鎌倉遺文月報 8	1975	
山中裕	日記と記録	『観賞日本古典文学 10 王朝日記』	1975	『平安時代の古記録と貴族文 化』思文閣出版
土田直鎮	古代史料論 記録	『岩波講座日本歴史 別巻2』岩波書店	1976	『奈良平安時代史研究』吉川 弘文館 1992
橋本義彦	古記録誤写誤読	日本歴史 339	1976	『平安貴族』平凡社
文化庁監修	『重要文化財 23 書籍・典籍・ 古文書 6 文書・記録2』	毎日新聞社	1977	
林屋辰三郎	史料論	『史料大系日本歴史 1』大阪書籍	1977	『日本史論聚7』岩波書店 1988
斎木一馬	古文書と古記録	『日本古文書学講座 1』雄山閣	1978	『古記録の研究 上』吉川弘 文館 1989
橋本義彦	古代の記録	『日本古文書学講座 2』雄山閣	1978	『平安の宮廷と貴族』吉川弘 文館 1996
石田祐一	記録の中の古文書	日本古文書学講座月 報 5	1979	
斎木一馬	日記とその遺品	『文化財講座日本の 美術 16 古文書』第 一法規	1979	『古記録の研究 上』吉川弘 文館 1989
木本好信	『平安朝日記と記録の研究』	みつわ	1980	
「重要文化財」編 纂委員会編	『解説版新指定重要文化財 9 書籍・典籍歴史資料 古文書3』	毎日新聞社	1981	
齊藤国治	『星の古記録』	岩波書店	1982	岩波新書

土田直鎮	記録について	学習院史学 19	1982	『平安京への道しるべ』吉川弘文館 1994
橋本義彦	日記に貼り継がれた文書	鎌倉遺文月報 22	1982	『平安の宮廷と貴族』吉川弘文館 1996
平林盛得	不思議な逸文	汲古 2	1982	
位藤邦生	真名日記研究覚書	中世文学研究 9	1983	
橋本義彦	古記録と古天文学	日記・記録による日本歴史叢書月報 6	1983	『平安貴族』平凡社
宮内庁書陵部編	『後崇光院と伏見宮本 展示目録』	宮内庁書陵部	1984	
村井順	平安時代の日記	淑徳国文 26	1984	
村井康彦	王朝期の日記	『国文学研究資料館講演集 5』	1984	『王朝文化断章』教育社 1985
京都市歴史資料館編	『記録の文化 日記の世界 』	京都市歴史資料館	1985	
竹内理三・滝沢武雄編	『史籍解題辞典 上』	東京堂出版	1985	新装版 1995
藤本孝一	頒暦と日記 上下	京都市史編さん通信 188・189	1985	
松蘭齊	日記の家	九州史学 84	1985	『日記の家』吉川弘文館 1997
齊藤国治	『国史国文に現れる星の記録の検証』	雄山閣出版	1986	
宮内庁書陵部編	『古代の記録 展示目録』	宮内庁書陵部	1986	
木本好信	平安朝の公日記と逸文	米沢史学 2	1986	『平安朝日記と逸文の研究』
峰岸明	古記録の伝存について	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会	1986	
安田元久	随想 史料としての「記録」とその欠落部分	陽明叢書記録文書篇月報 14	1986	
石原昭平	漢文日記から日記文学へ 歌と絵と物語との交流	国文学解釈と鑑賞 51-6	1986	『平安日記文学の研究』勉誠社 1997
木本好信	『平安朝日記と逸文の研究』	桜楓社	1987	
池上洵一	貴族日記における説話の方法 「興定め」のことなど	『中世説話とその周辺』明治書院	1987	『説話と記録の研究』和泉書院 2001
橋本義彦	「日記」の家	陽明叢書記録文書篇月報 15	1987	
松蘭齊	日記の終わりと出家についての一考察	『日本中世史論攷』文献出版	1987	
村井康彦	私日記の登場 男日記と女日記	国語と国文学 64-11	1987	
山中裕	『平安時代の古記録と貴族文化』	思文閣出版	1988	
国立歴史民俗博物館編	『中世の日記』	国立歴史民俗博物館	1988	
天理大学附属図書館編	『日本の古記録』	天理ギャラリー	1988	
飯倉晴武	古記録の諸相	ビブリア 91	1988	
田中稔	中世の日記の姿	『中世の日記』国立歴史民俗博物館	1988	『中世史料論考』吉川弘文館 1993
藤本孝一	古記録学小考 史料学としての提言 上	陽明総書記録文書篇月報 19	1988	
桃裕行	『古記録の研究』上	思文閣出版	1989	
斎木一馬	『古記録の研究』上下	吉川弘文館	1989	
	『日本歴史「古記録」総覧』上	新人物往来社	1989	歴史読本特別増刊
橋本義彦	古記録について	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社	1989	『平安の宮廷と貴族』吉川弘文館 1996
藤本孝一	古記録学小考 史料学としての提言 下	陽明総書記録文書篇月報 20	1989	
松蘭齊	讓状と「日記の家」 記録讓状の分析と勸修寺流藤原氏	史淵 126	1989	『日記の家』吉川弘文館 1997

松園斉	「日記の家」について	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社	1989	
所功	歴代天皇の御記	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社	1989	
川口久雄	漢文日記と仮名日記 その特徴と差異	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社	1989	
諏訪春雄	女の方法、男の方法 女流日記文学と漢文記録	『日本歴史「古記録」総覧 上』新人物往来社	1989	
森田謙吉	漢文日記の記録性と文学性	『日本文学講座 7』大修館書店	1989	『日記文学の成立と展開』笠間書院 1996
斎木一馬	『古記録学概論』	吉川弘文館	1990	
桃裕行	『古記録の研究』下	思文閣出版	1990	
	『日本歴史「古記録」総覧』下	新人物往来社	1990	歴史読本特別増刊
中田武司	『白馬節会研究と資料』	桜楓社	1990	
松園斉	中世神社の日記について 「日記の家」の視点から	史淵 127	1990	
松園斉	出雲国造家の記録讓状作成の歴史的背景	『古代中世史論集』吉川弘文館	1990	
松園斉	中世の女性と日記 「日記の家」の視点から	金沢文庫研究 285	1990	
秋山虔	漢文日記と仮名日記	ぐんしょ 3-2	1990	
京都大学文学部博物館編	『公家と儀式』	京都大学文学部博物館	1991	
宮内庁書陵部編	『大嘗会関係資料展示目録』	宮内庁書陵部	1991	
永井晋	鎌倉の部類記	ぐんしょ 4-2	1991	
福田秀一	日記記録と日記文学 いわゆる漢文日記の文学性をめぐって	『論集日記文学』笠間書院	1991	
山中裕	古記録雑感	『撰関時代と古記録』吉川弘文館	1991	
大島幸雄編	『国書索引叢刊 5 平安朝漢文日記索引 典籍文書篇』	国書刊行会	1992	
米田雄介	『歴代天皇の記録』	続群書類従完成会	1992	
平林盛得	伏見宮旧蔵部類記と西園寺公衡	書陵部紀要 43	1992	
松園斉	「日記を焼く」ということ	愛知学院大学人間文化研究所報 18	1992	
松園斉	元永二年小野宮家記事事件について 院政期の小野宮流	古代文化 44-12	1992	
松園斉	中世天皇の「家」について 「日記の家」の視点から	愛知学院大学文学部紀要 21	1992	『日記の家』吉川弘文館 1997
山中裕編	『古記録と日記』上下	思文閣出版	1993	
厚谷和雄	平安時代古記録と時刻について	日本歴史 543	1993	
上杉和彦	官職制度史料としての古記録	『古記録と日記 下』思文閣出版	1993	
片山剛	古記録と和歌	『古記録と日記 下』思文閣出版	1993	
所功	日記の部類記	『古記録と日記 下』思文閣出版	1993	
松園斉	日記の家 撰関家を中心に	『岩波講座日本通史 7 中世 1』岩波書店	1993	『日記の家』吉川弘文館 1997
松園斉	「日記の家」と説話作家	『古記録と日記 下』思文閣出版	1993	
美濃部重克	戦場の働きの価値化 合戦の日記・聞書き・家伝そして文学	国語と国文学 70-12	1993	
村井康彦	私日記の登場	『古記録と日記 上』思文閣出版	1993	

森田悌	事件の日記	『古記録と日記 上』 1993 思文閣出版	
山中裕	古記録と日記	『古記録と日記 上』 1993 思文閣出版	
米田雄介	歴代天皇の本記と逸文	『古記録と日記 上』 1993 思文閣出版	
米田雄介	皇后・親王たちの日記逸文	『古記録と日記 上』 1993 思文閣出版	
三の丸尚蔵館編	『古記録にみる王朝儀礼』	三の丸尚蔵館 1994	
	『日本歴史「日記」総覧』	新人物往来社 1994	歴史読本特別増刊
文化庁監修	『国宝 11 書跡 3 古文書・古記録・古筆・その他・墨蹟』	毎日新聞社 1994	
中田武司	『元日節会研究と資料』	おうふう 1994	
平林盛得	儀式書と古記録	『古記録にみる王朝儀礼』三の丸尚蔵館 1994	
松園斉	日記論 平安中期の日記を中心に	歴史評論 525 1994	
山中裕	日記と古記録	『日本歴史「日記」総覧』新人物往来社 1994	
山中裕	古代の日記	『日本歴史「日記」総覧』 1994	
益田宗	中世の日記	『日本歴史「日記」総覧』 1994	
国書逸文研究会編	『新訂増補国書逸文』	国書刊行会 1995	
龍福義友	『日記の思考』	平凡社 1995	
飯倉晴武	古記録について(一)	ぐんしょ 8-4 1995	
フアン・ヌ・イェイ	日記から見た平安中期の社会	日仏文化 59 1995	
森田兼吉	記録としての日記の考察 日記文学前史	日本文学研究 30 1995	『日記文学の成立と展開』笠間書院 1996
京都市歴史資料館編	『八坂神社の古記録』	京都市歴史資料館 1996	
榎原雅治	日記とよばれた文書 荘園文書と惣有文書の接点	史学雑誌 105-8 1996	『日本中世地域社会の構造』校倉書房
大村拓生	日記の記録過程と料紙の利用方法	『中世文書論の視座』東京堂出版 1996	
菊地仁	記録をめぐる言説 院政期文化圏の生態学	『講座平安文学論究 11』風間書房 1996	
佐伯真一	動乱期の記録と文学	『岩波講座日本文学史 4』岩波書店 1996	
松井輝昭	古代・中世における文書の管理と保存	『記録史料の管理と文書館』北海道大学図書刊行会 1996	
松園斉	家記の構造 勸修寺流藤原氏とその日記	年報中世史研究 21 1996	『日記の家』吉川弘文館 1997
大島幸雄	私日記の起筆に関する覚書	『奈良平安時代史の諸相』高科書店 1997	
高橋秀樹	「田中穰氏旧蔵典籍古文書」所収の記録類について	国立歴史民俗博物館研究報告 72 1997	
田中本調査団編	「田中穰氏旧蔵典籍古文書」所収記録類目録	国立歴史民俗博物館研究報告 72 1997	
田島公	禁裏文庫の変遷と東山御文庫の蔵書 古代・中世の古典籍・古記録研究のために	『日本社会の史的構造 古代・中世』思文閣出版 1997	
益田宗	曆に日記をつける 古記録の研究序説	『新しい資料学を求めて』吉川弘文館 1997	
松園斉	『日記の家』	吉川弘文館 1997	
飯倉晴武	『日本史小百科 古記録』	東京堂出版 1998	
五味文彦編	『日記に中世を読む』	吉川弘文館 1998	
山口唯七	『公卿日記の統計的考察 玉』	私家版 1998	

	葉・明月記』			
河北騰	『歴史物語と古記録』	おうふう	1998	
宮内庁書陵部編	『展示目録 貴重史料の世界 家別蔵書群から』	宮内庁書陵部	1998	
五味文彦	中世日記の特質	『日記に中世を読む』 吉川弘文館	1998	
尾上陽介・末柄豊	中世古記録（日記）関係文献目録抄	『日記に中世を読む』 吉川弘文館	1998	
山中裕・高橋秀樹・幾永朋浩	平安公家社会の史料	風俗史学 1	1998	
山中裕	古記録と部類記	明月記研究 3	1998	
	『皇室の至宝 東山御文庫御物 1』	毎日新聞社	1999	
	『皇室の至宝 東山御文庫御物 2』	毎日新聞社	1999	
	『皇室の至宝 東山御文庫御物 3』	毎日新聞社	1999	
宮内庁書陵部編	『平成新収善本展目録』	宮内庁書陵部	1999	
飯倉晴武	古記録について	福大史学 66・67	1999	『日本中世の政治と史料』吉川弘文館 2003
詫間直樹	伏見宮家の記録目録	日本歴史 615	1999	
松園斉	王朝勢力と 情報 情報装置 としての日記	歴史学研究 729	1999	『王朝日記論』法政大学出版 局 2006
村井章介	中世史料論	古文書研究 50	1999	
	『皇室の至宝 東山御文庫御物 4』	毎日新聞社	2000	
	『皇室の至宝 東山御文庫御物 5』	毎日新聞社	2000	
国立歴史民俗博 物館編	『国立歴史民俗博物館資料目録 1 田中穰氏旧蔵典籍古文書目 録 [古文書記録類編]』	国立歴史民俗博物館	2000	
木本好信	『平安朝官人と記録の研究』	おうふう	2000	
曾我良成	王朝貴族日記の素材としての情 報 古記録の死角	名古屋学院大学論集 (社会科学篇)36-3	2000	
田島公	近世禁裏文庫の変遷と蔵書目録 東山御文庫本の史料学的・目 録学的研究のために	『皇室の至宝 東山 御文庫御物 5』毎日 新聞社	2000	『東山御文庫本を中心とした 禁裏本及び禁裏文庫の総合的 研究』2001
池上洵一	『池上洵一著作集 第2巻 説 話と記録の研究』	和泉書院	2001	
藤井譲治・有坂 道子編	『京都大学文学部日本史研究室 関係日記目録』	京都大学大学院文学 研究科	2001	
田島公	『東山御文庫本を中心とした禁 裏本及び禁裏文庫の総合的研 究』	東京大学史料編纂所 助教授田島公	2001	科学研究費補助金研究成果報 告書
浦野都志子	『歴代残闕日記』について	汲古 39	2001	
田島公	中世天皇家の文庫・宝蔵の変遷 蔵書目録の紹介と収蔵品の行 方	『東山御文庫本を中 心とした禁裏本及び 禁裏文庫の総合的研 究』	2001	
新田英治	中世の日記を読むにあたって	『歴史遊学』山川出 版社	2001	
松園斉	王朝日記”発生”についての一 試論	日本歴史 643	2001	『王朝日記論』法政大学出版 局 2006
加納重文	『明月片雲無し』	風間書房	2002	
飯倉晴武	中・近世公家文庫の内容と伝承	東北地区大学図書館 協議会誌 53	2002	『日本中世の政治と史料』吉川弘文館 2003
京都大学総合博 物館編	『日記が開く歴史の扉』	京都大学総合博物館	2003	
尾上陽介	『中世の日記の世界』	山川出版社	2003	
飯倉晴武	『日本中世の政治と史料』	吉川弘文館	2003	

田島公編	『禁裏・公家文庫研究 1』	思文閣出版	2003	
富田正弘	中世の組織体と記録	『アーカイブズの科学』上、柏書房	2003	
遠藤珠紀	中世における具注暦の性格と変遷	明月記研究 8	2003	『中世朝廷の官司制度』吉川弘文館 2011
遠藤珠紀	中世の行事暦注に見る公事情報の共有	日本歴史 679	2004	
尾上陽介	再利用された日記原本 『猪隈関白記』『後深心院関白記』を中心に	年報三田中世史研究 12	2005	
井原今朝男	中世の日記	歴博 131	2005	
吉岡眞之	部類記 「公家学」の教材	歴博 131	2005	
阿部猛編	『古文書古記録語辞典』	東京堂出版	2005	
高橋秀樹	『古記録入門』	東京堂出版	2005	
松園斉	『王朝日記論』	法政大学出版局	2006	
田島公編	『禁裏・公家文庫研究 2』	思文閣出版	2006	
櫛笥節男	『宮内庁書陵部 書庫渉獵』	おうふう	2006	
酒井茂幸	霊元院仙洞における古記録の収書活動	日本歴史 699	2006	
中丸貴史	私日記の発生と展開 覚書 外記日記の変容を通して	『日本・中国 交流の諸相』勉誠出版	2006	
	『中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究 高松宮家伝来禁裏本を中心として 研究調査報告 1』	同研究プロジェクト	2007	
中丸貴史	記憶の現在 漢文日記書くことの論理	物語研究 7	2007	
	『中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究 高松宮家伝来禁裏本を中心として 研究調査報告 2』	同研究プロジェクト	2008	
	『具注暦を中心とする暦資料の集成とその史料学的研究』	研究代表厚谷和雄	2008	
小林健彦	日本語表現に於ける伝聞記事の様相について 「云々」の用法を中心として	新潟産業大学人文学部紀要 20	2008	
鹿内浩胤	伏見宮本 『東宮御元服部類記』について	『杜都古代史論叢』今野印刷	2008	
湯山賢一	『撰家旧記目録』について	古文書研究 66	2008	
高田義人	宮内庁書陵部所蔵九条家本部類記所引記録編年集成(稿)	『画像史料解析による前近代日本の儀式構造の空間構成と時間的遷移に関する研究』(研究代表加藤友康)	2008	
尾上陽介	東京理科大学近代科学資料館所蔵『具注暦 仮名暦』について	東京大学史料編纂所研究紀要 18	2008	
石田実洋	洞院家旧蔵の部類記と洞院公定 高松宮家伝来禁裏本 『脱履部類記』を中心に	『中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究 高松宮家伝来禁裏本を中心として 研究調査報告 2』	2008	『禁裏本と古典学』塙書房 2009
田島公編	『禁裏・公家文庫研究 第3輯』	思文閣出版	2009	
山中裕	古記録と源氏物語	『平安文学史論考』武蔵野書院	2009	
高橋秀樹	古記録と仮名日記	『平安文学史論考』武蔵野書院	2009	
藤本孝一	家記と部類記 松園斉著 『日記の家』によせて	『中世史科学叢論』思文閣出版	2009	
吉岡眞之	前田綱紀収集 『秘閣群籍』の目	『禁裏本と古典学』	2009	

	録について	塙書房		
石田実洋	東山御文庫本『御本御目録』と 高松宮家伝来禁裏本	『禁裏本と古典学』 塙書房	2009	
吉江崇	『勸修寺家文庫所蔵部類記目録 (稿)・大記写本一覧(稿)』	吉江崇	2010	